

“主のご復活、おめでとうございます！”

イエス・キリストを知り、学び、大きな希望と喜びを感じ、洗礼を受けられた方々、おめでとうございます。

復活徹夜祭ではロウソクを用意し、年号を入れキリストは α (アルファ)であり、 Ω (オメガ)であると刻んでいきます。このロウソクはキリストが死に打ち勝って復活した印として点火し、そしてそれぞれが持つロウソクにその光をいただきます。「あなたがたは世の光」という印として、私たちの心の中に灯されたキリストの光が人びとを照らし、天の父を崇めるよう、私たちシグニスも復活の息吹に新たにされ、福音を届けられますように！

日本カトリック映画賞に『先祖になる』決定！ 池谷 薫監督 / 2012年 / 蓮ユニバース製作・配給 授賞式&上映会 2014年5月5日(月)13:00開演 なかのZERO 小ホール

ドキュメンタリー映画「先祖になる」が第38回日本カトリック映画賞に選ばれ、授賞式と上映会が来る5月5日(月)、午後1時より東京・なかのZERO小ホールで行われます。本作は、岩手県陸前高田市在住の佐藤直志さん(77歳)の震災後を描いた愛と勇気のドキュメンタリーです。佐藤さんは津波で長男を失い、家も壊されました。奥さんは仮設住宅に移りましたが、きこりの佐藤さんは壊れた家に留まり、森の木を伐って家を建て直すという夢を捨てません。

「水だけあれば、どんな所でもやっていける。」瓦礫を除き野菜を作り、田んぼを借り田植えをして自給自足に近い生活を始めます。佐藤さんは、病気や腰の痛みを抱えながらも言います。「震災に負けないくらい、丈夫に生んでもらって、育ててもらって親に感謝するね。」困難に遭っても生きていることへの感謝を忘れず、老いても夢を持ち、人にはやさしく接する佐藤さんは、人として大切なことは何かを示してくれます。「人は年を重ねただけでは老いない。夢を失ったとき、初めて老いる」そんな言葉を思い出させてくれる傑作です。

授賞式には、幸田和生司教(東京教区補佐司教/シグニス ジャパン顧問司教)も出席、上映後には池谷薫監督と晴佐久昌英神父(カトリック多摩教会主任司祭/同顧問司祭)の対談が行われます。(鈴木)ベルリン国際映画祭エキュメニカル賞特別賞受賞

チケット：1,000円/高校生以下、障がい者(含介助者1名)800円 ★皆さまのお越しをお待ちしております。

販売：聖イグナチオ教会案内所、スペースセントポール、サンパウロ書店(四ツ谷駅前)、高円寺教会天使の森
 問い合わせ先：SIGNIS JAPAN 事務局 info@signis-japan.org / TEL 080-3503-9680/担当：Sr.清水(女子パウロ会)



神戸で「教会とインターネットセミナー」

3月15日、カトリック神戸中央教会にて第19回「教会とインターネットセミナー」が開催された。初の関西地方での開催となった今回は「インターネットが拓く新・福音宣教Ⅷ」で、昨年6月の東京での開催に続き、ソーシャル・ネットワークを使った福音宣教の可能性を探るという内容だった。参加者はスタッフを含めて65名で、事前に申し込んだ人が38名、当日申込みが17名、スタッフが10名。当日申込みを可としたのが、今回の特長。参加費は無料にし、当日自由献金の袋をまわした。

内容は、まず SIGNIS からの報告、そして片柳弘史神父(イエズス会)の講演「デジタル大陸への宣教」があり、休憩をはさんでパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、大阪教区の川邨裕明神父はFacebook を使って若者たちへのアプローチの試みを説明され、こいずみゆりさんはゴスペルシンガーとしての自らの音楽活動のための活用について報告し、そしてプロテスタントの波勢邦夫氏は Twitter、Facebook や Line などのSNSのそれぞれの特性を説明しながら、若い世代への宣教の可能性を述べられ、その後会場からの感想や意見の発表があった。

もっとも印象的だったことは、片柳神父が、これまでのローマ教皇の「広報の日」のメッセージを引用しながら「残された宣教地としてのデジタル大陸への宣教」の可能性を熱っぽく語られ、Twitter や Facebook を通じて発信する毎日の福音のメッセージがどのように人びとの心へと届けられているかをリアルに報告されたことであった。



ディスカッションでは、マリア像を求めて全国の教会を行脚されているカメラマンの活動や国際教育に活用されていることの報告があった。プロテスタント教会からの参加者の発言も多かった。またSNSの宣教への活用に懐疑的な意見もあった。なお、今回も Ustream によるインターネット中継が行われ、140名余のアクセスがあった。(土屋)

シグニス世界大会 ローマで開催 ～次の4年間に向けて躍進を誓う～

80ヶ国、300人が参加して、4年に一度のシグニス世界大会がローマにて2月25日から3月1日まで開かれ、日本からは若者の杉野さんと事務局長の町田、現地にてBr.洗川(聖パウロ修道会)が参加しました。テーマはこの4年間同じ「平和の文化のためのメディア: 新世代と創る映像」。全体会議やワークショップの他に 地域会議や総会事務事項、規約改正、役員改選があり、新体制が固まりました。今回、日本(町田)がアジアの役員となったので、今回の世界大会の主要企画の「Future Search」(未来探し)に参加しました。シグニスのミッションそのものは変わらないですが、もっと各国が情報交換して、年代を超えて、お互いに勉強・刺激・協力し合って、積極的に活動し、変化をもたらそうとの結論です。活動テーマはこれに合わせて新しいものが世界事務局から出されます。非常に楽しみです。(町田)

世界大会では、様々な国のカトリックメディアの方と交わる事が出来、メディアでの宣教を考える、素晴らしい機会となりました。特に今回刺激となったのは、やはり「新世代」と「中東」の二つでした。若くして(僕よりも笑)、シグニスとして活動している青年たちと関係を築けた事、新しい才能を見せつけられた事は、非常に刺激的でした。そしてFBにもアップしましたが、レバノンからの訴え。彼らの、キリスト教メディアとして現地で発信を続ける事、他宗教との対話を諦めない決意の表明は、会場での鳴り止まない拍手と共に、多くの参加者の心を揺さぶりました。1月15日の一般謁見で、フランシスコ教皇が、中東からの巡礼団に対して現在の状況を、日本のキリシタンを取り上げる事で、励ましておられます。

今回、レバノンの方とその事をお話すると共に、発表で使用されたパワーポイントをいただく事が出来ました。何かの機会で、日本でも展開出来ればと思います。(杉野)



写真中央後ろが杉野会員

会員紹介 「シグニスと私」 山本昌子 (カトリック高円寺教会)



私が、SIGNIS のメンバーに再度加えていただいてから、3年になろうとしている。晴佐久師をはじめ、定例会には、10数名の会員が参加し、其々の分野での活動・活躍を分かち合っている。その実りが、私の日々の糧の一部となっている。

この数十年間、多くの方々との出会いがあった。それらの出会いが、今の私の存在につながっていることの不思議さを強く感じる。その中には、すでに天国に召された方もおられるが、私の衰えた記憶を頼りに、感謝の思いを込めて、その方々のお名前を心に留めて置きたいと思った。「日本司教団広報担当」の糸永真一司教・浜尾文郎枢機卿・デベラ師・山本襄治師、平林冬樹師、「心のともしび」のハヤット・マクドネル・ジョリコール・近藤雅広の4師、「パウロ会」の夫津木昇・戸村修・山口輝男の3師、「女子パウロ会」の白井詔子・長谷川昌子・柳沢チエの3シスター、「バチカン放送」のSr.石野・志賀氏、「ラジオ・ベリタス」の小川靖忠師・Sr.永峰、「健全映画」の西村氏、「共同通信社」の横川和夫氏、「教皇訪日担当」の水浦征男師・山口氏、「写真家」の菅井日人氏とその夫人、「音響映像」のニールンベルガー氏等々。そして、最後になってしまうが、その当時から変わることなく共に活躍中の、映画監督の千葉茂樹会長や、土屋氏、鈴木氏はじめ、現在に至って幸田和生司教、鵜飼夫妻、町田氏、Sr.清水その他、多くのメンバーに支えられての私があることに感謝している。

賛助会員募集

と一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう！

私たちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム！」(年3回発行)をメールまたは郵便にてお届けする他、今年も賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で予定しています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。年会費一口 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。どうぞよろしくお願いいたします！

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org
会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ 銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹
郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 千葉茂樹